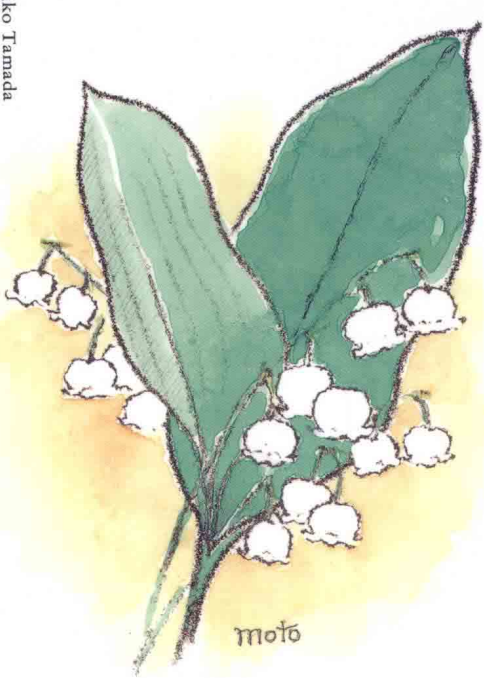
大地の花

私たちの〈戦争〉体験をこえて

玉田澄子
Sumiko Tamada



春秋社

大地の花

私たちの〈戦争〉体験をこえて

玉田澄子

春秋社

玉田澄子（たまだ　すみこ）
昭和13年　岐阜県に生まれる。
昭和19年　家族とともに旧満州入植。
昭和21年　旧満州より引き揚げ。
平成５年　日中友好ボランティア組織「微風の会」（岐阜市三笠町2-1-4）設立。
現　　在　同人誌「小品」代表。「微風の会」事務局長。NHK文化センター（名古屋・岐阜）講師。

大地の花――私たちの〈戦争〉体験をこえて
一九九九年三月三十日　第一刷発行

著　者　玉田澄子
発行者　神田　明
発行所　株式会社春秋社
東京都千代田区外神田二―一八―六（〒一〇一―〇〇二一）
電話〇三―三二五五―九六一一　振替〇〇一八〇―六―二四八六一
印刷所　株式会社太平印刷社
製本所　寿製本株式会社
装　画　柳　元悦
装　丁　本田　進
定価はカバー等に表示してあります
1999 © ISBN 4-393-43615-6

ふりがなの表記について

中国では「満州国」の存在を認めていません。また「支那」という表現もありません。しかし、この物語の、中華人民共和国建国以前の部分は、当時の日本人のようすを描いたものなので、今では使われていない地名も使っています。

中国の地名、人名は、中国語読みで書き表すのが正しいのですが、一部はこれまでの日本の慣例にならい、日本語読みになっています。ふりがなの「カタカナは中国語読み」、「ひらがなは日本語読み」と区別しました。

大地の花

目　次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

第一章　中国からの手紙「ニイハオ」……3
第二章　中国の東北にいたわけ……13
第三章　開拓団の暮らし……35
第四章　トランポリンで真っさかさま……51
第五章　売られていった子どもたち……79
第六章　ニーヤの家……103
第七章　ひきあげだよ！　日本に帰るのだよ！……133

第八章　悲しみが深い深いしわになって……163
第九章　豆畑には骨がいっぱい……179
第十章　地の花・人の花・天の花……195
付　章　中国の奨学生たち……205
奨学生分布地図
中国東北部地図
琿春周辺地図
開拓団入植地図
あとがき

大地の花——私たちの〈戦争〉体験をこえて

第一章　中国からの手紙「ニイハオ」

中国の高校生、張鈺（チャンユイ）さんから手紙が来ました。

「こんにちは、日本のおばあさん、お元気ですか？」

と、書いてあります。

私は血のつながった祖母ではありませんが、彼女はとても可愛い少女で、孫のひとりのような気がしています。

私には中国に張鈺さんのような孫が、たくさんいます。少女ばかりではありません。どちらかといえば少年の方が多いのですが、毎年人数が増え続けて、今年は四八〇人にもなりました。来年は六〇〇人、再来年は七二〇人と増えていきます。

この孫たちは私ひとりの孫ではありません。「私の孫よ」、「ぼくの孫だ」と思っている

日本人はとてもたくさんいます。この孫たちは「微風の会」という会に入っている人、みんなの孫なのです。

張鈺さんの手紙は中国の遼寧省から来ました。

遼寧省は中国のどのあたりにあるか、わかりますか。

毎年のように中国東北地方から日本へ「中国残留日本人孤児」の人たちが来ますね。新聞に顔写真や手がかりが掲載され、テレビにも出演して、肉親を探しています。

遼寧省は残留孤児たちが住んでいる中国東北地方にあります。

私たちは毎日のようにテレビの画面で、中国東北地方を見ているのですが、気づいていますか？

テレビの天気予報の画像を見たことがあるでしょう。思い出してください。

日本列島がユーラシア大陸に沿って、弓なりの曲線を描きながら海上に浮かんでいます。その同じ画面に、中国大陸の一部と朝鮮半島、ロシア沿海州も映し出されています。

遼寧省は、朝鮮半島の北部に続く中国の省の一つで、渤海湾に突き出した遼東半島とその根っこに広がる省で、今世紀初めから日本人がたくさん移住していたところです。その頃は船で渡りました。遼東半島の先にある大連港は、日本人にも親しみのある港です。

張鈺さんの家は、それよりだいぶ北で、吉林省との境界に近い鉄嶺市西豊県金星満族

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

郷同興村南力勤屯にあります。

私は張さんの家に行ったことはありませんが、彼女に会ったことはあります。とても明るく賢い生徒です。張さんの住所からわかることは、張さんが中国の少数民族の一つ満族郷に住む少女だということです。

中国にはおよそ十二億の国民がいて、全人口の九二パーセントは漢民族ですが、残り八パーセントの人口のなかに五五の少数民族が含まれています。満族もその一つです。いまから九〇年ほど前までは、満族の清朝が中国を支配し、二七〇年もの間、中国全土に君臨しました。今は中国の少数民族保護政策のもとに、東北部各地に満族郷がつくられています。

中国残留日本人孤児がいるのだから、日本人も少数民族として保護されているのかと思いますが、残留孤児たちは幼少のころ、漢族、満族、朝鮮族、回族（蒙古）などの養子となったので、それぞれ親の民族に属していて、張さんの村のようにまとまって暮らしているわけではありません。

私たち微風の会の孫の中には、漢族も満族も朝鮮族も蒙古族もいます。中国では多くの民族が仲良く暮らしていて、張鈺さんも小学校と初級中学までは満族郷にある学校に通いましたが、優秀な成績なので、高校に進学することになり、西豊県第一中学（高級中学）

に入学し、微風の会から贈られる「大澤基金奨学金」を受けるようになりました。

中国は、日本と同様に小学校六年と初級中学三年の九年間が義務教育で、無試験で入学できますが、卒業試験に合格しない人は留年します。ですから、みんな必死で勉強します。

初級中学を卒業すると、大学へ進む人は高級中学へ、その他の人は、それぞれの職業専門学校に進みます。もちろん、いずれにも進学しないで就職する人もたくさんあります。中には義務教育でも中途で退学し、家の仕事を手伝う子どももあるそうです。

中国は国土が広く人口密度にもばらつきがあって、農村部では初級中学が家の近くにないので生徒は寄宿舎に入ります。学習費に加えて寮費がかかるので貧しい家ではその出費に悩まなければなりません。成績がよい生徒には村や学校、親戚が援助して進学できるように励まします。微風の会もその手助けをしているわけです。

職業専門学校にはいろいろの職種がありますが、農林関係と教師になる師範専門学校は、成績がよければ学費免除で進学することができて、師範専門学校を卒業すると小学校の先生になれるそうです。高級中学を卒業して師範大学に進み高級教師になる人もいます。そのほか、大学では高度な知識、科学技術を修め国家に有用な人になりたいと、中国の子どもたちは向学心に燃えています。

中国は日本と違って新学期は九月で、上期と下期の二学期制です。

張鈺さんの手紙を読んでみましょう。

玉田先生が六月に中国を訪問されてから早いものでもう四ヵ月も過ぎてしまいました。私もこの九月に高級中学三年生になりました。

今年度の「大澤基金奨学金」は学校の「国旗掲揚式」の席上で、私たちに授与されました。私たち一〇人の学生は高々と揚がった国旗の下に整然と並び、校長先生から奨学金が一人一人に手渡されました。校長先生の、

「日本の皆さんの気持ちに応え、しっかり勉強するんだよ」の言葉を聞き、私は熱いものがこみあげてくるのを感じ、しっかりうなずきました。

この時、私の中に、六月八日のあの日の光景が浮かんできました。

あの日の、みんなの喜ぶ様子、おしゃべり、ふれあい、そして心なごむ歌声、それはまるで家族と一緒にいるような雰囲気でした。

先生は、私の肩をたたきながら、しっかり頑張るように励ましてくださいましたね。それからみんな一緒に手をつなぎ、肩よせあって「幸せなら手をたたこう」を歌いました。私は手が痛くて真っ赤になるまでたたきました。私はとても興奮していました。それはそれは楽しい時間でした。

いよいよなごり惜しい別れの時がきました。私たちは力いっぱい手を振り、別れを惜しみました。お互い言葉は通じなくても、お互いの心が通じているのがとてもよく分かりました。この日の交歓会はとても有意義なものでした。進んで学ぶ気持ちをかきたて、勉強への大きなエネルギーを与えてくださるものでした。きっと他の学生も同じような感想を持っただろうと思います。

この会を開いていただいた先生はじめ皆様方に心から感謝申し上げます。

私も高等（大学）入試まで七ヵ月を残すのみとなりました。人生のダッシュの時、計画を実行する時にあたり、いま、私の心の中にあるのはただ、「努力」の二文字です。皆様の熱い期待に背くことなく、これからも努力します。

皆様とお会いしたあの日のことを忘れることなく。

皆様への心からの感謝と、先生のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

九八年十月一日　　張　鈺（稲積幸佐久訳）

私はテレビの天気予報を見ているときも、自分が住んでいる日本だけではなく、映し出されている中国東北のお天気がとても気になります。この手紙をくれた張さんや、他にたくさんの孫たちが学校に通っているからです。

沖縄や九州、四国におじいさんやおばあさんが住んでいる人は、台風の時などは心配でしょう。私も同じ気持ちです。

夏は南の海から湿った雨雲が北上して、中国東北に大雨を降らせ、時には洪水をもたらします。昨年は特にひどくて、東北地方の真ん中を流れる黒龍江省の松花江では大洪水になりました。

寒い季節も心配です。

冬になると西高東低の気圧配置となってシベリヤ上空に発生した寒気団が日本の上空にまで下りてきます。海に囲まれた日本列島は氷点下になっても薄氷が張る程度ですが、シベリヤに近い中国東北地方は、ほとんどの河が凍って、気温もマイナス三〇度、マイナス五〇度にも冷え込みます。

テレビで、天気予報官の、

「シベリヤ寒気団が居座っています」という声を聞くと、張さんは風邪をひいていないかしら、李くんは元気に学校に行っているだろうか、劉さんは？　と心配になります。

奨学金を受けた学生四八〇人の名前はみんなわかっていますし、写真では顔を見たことがあります。その子たちの作文を読んだこともあるので、どんな考えをしている子か、住んでいる村はどこか、家族は何人？　学校の成績はどうか、みんなわかっているのですが、

会ったことがあるのは、そのうちの五十八人です。手紙をくれた張鈺さんもその一人です。外国の奨学生に選ばれるほどですから、どの子も「三好学生」に選ばれています。三好というのは、頭もよくて、心もよくて、体もよく、とても好ましい学生という意味です。

まもなく二十一世紀が始まります。

日本人のあなたも、この中国の少年少女たちも、一緒に二十一世紀を生きていく運命にあります。地球の仲間です。

私を含めて微風の会の人たちが、どうしてこんなにたくさんの孫を中国に持つようになったか、そのきっかけをお話しましょう。

私は残留孤児ではありませんが、小学校三年まで中国東北地方にいたことがあります。

もう一度天気予報のテレビを思い出してください。

放送衛星から送られてくる映像をよく見ると、陸地の起伏が、まるで魚の骨のように写しだされています。朝鮮半島の付け根の辺りから北へ伸びている山の尾根が木の葉のスジのようにも見えます。それが中国の長白山山系で、鴨緑江、豆満江（図們江）、松花江の源流にあたります。

私が子どもの頃にいたところは、この長白山山系の東側で、ロシア沿海州のウラジオス

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com